



東日本大震災復興支援&ファミリー交流活動

ニューエイズ基金presents

東北 3 県ドッジビー大会 報告書



DBJA Dodge
Bee of
Japan
Association

東日本大震災復興支援&ファミリー交流活動

ニューウエイズ基金 presents 東北3県ドッチビー大会

ご報告にあたって

日本ドッチビー協会
代表 稲垣 敬雄

【開催趣旨と御礼】

2011年3月に起きた大地震により大きな被害を受けた東北3県（岩手／宮城／福島）での復興支援はあらゆる組織・団体が様々な活動をおこなっています。

私達、日本ドッチビー協会が役に立てることは何なのか？と常に模索しておりましたが、あつと言う間に発生から既に1年以上が経過してしまいました。

時が経過した今、思い、考えることも重要ですが、行動することはもっと重要だ。との認識から「スポーツによるコミュニティ再生の後押しとなるべく、楽しい時間を過ごしていただき、私達協会のスローガンでもある Smile for ALL の実践」という具体的な活動が最も私達らしく、実現可能な行動ではないか。との結論に至りました。

具体的には、ファミリーでおこなうことができ、子どもたちを中心に人気上昇中のディスクドッチを軸にしたドッチビー大会を岩手／宮城／福島県を舞台に夏休み期間中に出張開催するという方向性を確立いたしました。

そのような決定をした中、我々、日本ドッチビー協会と同じ想いを抱いていらっしゃる「一般財団法人 ニューウエイズ基金」より、本企画のスポンサーのお話をいただいたことでこの大会は一挙に実現に向けて進行した経緯があり、その出会いに感謝いたします。

本大会では子どもたちに、ドッチビーで思いきり体を動かし楽しむ中でチームワークや人との触れ合いを体感してほしい。という願いを込めて企画しました。

また、ディスクドッチ以外の種目のご紹介や、現地における指導者養成の側面から講習会の開催など、今後につながる施策をパッケージ化したイベントとして開催いたしました。

一般財団法人 ニューウエイズ基金をはじめ、関係各位には本大会の趣旨を御理解の上多大なるご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

【統一開催概要】

大会名称 : 東日本大震災復興支援&ファミリー交流活動
ニューウエイズ基金 presents 東北3県ドッチビー大会

主催 : 日本ドッチビー協会 (3大会を通した一連イベント)

特別協賛 : 一般財団法人 ニューウエイズ基金

【福島県大会 (会津若松市) 概要】

日時 : 平成24年8月3日 (金) 12:00~16:30

会場 : 会津総合運動公園内あいづ総合体育館メインアリーナ
会津若松市門田町大字御山字村上164番地 TEL: 0242-28-4440

主管 : 福島県フライングディスク協会

後援 : 大熊町教育委員会 / 会津若松市教育委員会

協力 : 会津地区総合型スポーツクラブユニオン
みんなで創るスポーツクラブすいっち (下郷町総合型スポーツクラブ)
会津大学フライングディスク部 DUALBOOT

【岩手県大会 (北上市) 概要】

日時 : 平成24年8月7日 (火) 12:00~16:30

会場 : 北上総合体育館 (北上総合運動公園内) 大アリーナ
岩手県北上市相去町高前檀 27-36 TEL: 0223-34-4251

主管 : 岩手県および北上市各フライングディスク協会

後援 : 北上市教育委員会 / 北上市体育協会

協力 : 北上市体育指導委員協議会 / 北上市ディスクゴルフ協会

【宮城県大会 (亶理町) 概要】

日時 : 平成24年8月21日 火曜日 9:30~15:30

会場 : 亶理町佐藤記念体育館
宮城県亶理郡亶理町字旧館 62-1 TEL: 0223-34-4251

後援 : 亶理町児童館・児童クラブ

【統一大会スタッフ】

日本ドッチビー協会 代表	稲垣 敬雄
日本ドッチビー協会 筆頭副代表	林 昌永
日本ドッチビー協会 補助員	稲垣 健太
日本ドッチビー協会 補助員 (福島/岩手)	岩合 朋子
エデルマン・ジャパン(株)	小保内 暁子
大会記録カメラマン (福島/岩手)	野上 浩一
大会記録カメラマン (宮城)	湯山 秀則

ニューウエイズジャパン(株)	後藤 宇紀子
ニューウエイズジャパン(株)	日下部 夏紀

【福島大会スタッフ】

福島県フライングディスク協会 会長	渡部 貴人
福島県フライングディスク協会 ドッチビー担当	馬場 祐二
会津若松市スポーツ推進員	
会津大学フライングディスク部 DUALBOOT	
赤ベコトータルスポーツ	斎藤 英子

【岩手大会スタッフ】

岩手県フライングディスク協会 会長	駒ヶ嶺 啓介
岩手県フライングディスク協会 事務局長	木野 渉
岩手県ディスクゴルフ協会	
北上市スポーツ推進委員	
岩手大学アルティメット部 RASIS	

【宮城大会スタッフ】

福島県フライングディスク協会 会長	渡部 貴人
社会人アルティメットクラブ 東京CREWS	鈴木 貴士
仙台大学 アルティメットサークルENERGISTA	
亘理町 中央児童センター	渡辺 れい子
亘理町 吉田西児童館	渡辺 一枝
亘理町 中央児童センター	佐藤 貴文
亘理町 荒浜児童クラブ	佐藤 恵美子
亘理町 吉田児童クラブ	斉 泉
亘理町 逢隈児童館	沢畑 和美
亘理町 中央児童センター	鈴木 雅子
	その他全 25 名の児童館職員

【福島大会 参加者】

8月3日 (金曜日)		総合計	76名
小学生 (下郷町10 大熊町12)	22名		
中学生 (下郷町3)	3名		
大学生 (会津大学)	17名		
ニューウエイズ [®] 基金	16名	選手合計	58名
スタッフ・引率 (下郷1 大熊2 市 ^林 推4)	7名		
DBJA・現地協会	11名	関係者合計	18名

【岩手大会 参加者】

8月7日 (火曜日)		総合計	126名
南小学校	16名		
相去サッカースポーツ少年団	41名		
黒沢尻東小ミニバスケチーム	31名		
ニューウエイズ [®] 基金	13名	選手合計	101名
スタッフ・引率 (岩手大学4 市 ^林 推7)	11名		
DBJA・現地協会	14名	関係者合計	25名

【宮城大会 参加者】

8月21日 (火曜日)		総合計	197名
児童館・児童クラブ 児童 (小学生)	153名		
ニューウエイズ [®] 基金	8名	選手合計	161名
スタッフ・引率 (仙台大学4 児童館職員25)	29名		
DBJA・現地協会	7名	関係者合計	36名

【全大会 参加者】 延数

小学生	263名		
中学生	3名		
大学生	17名		
ニューウエイズ [®] 基金	37名	選手合計	320名
スタッフ・引率	47名		
DBJA・現地協会	32名	関係者合計	79名
		総合計	399名

【大会前日の講習会】

- ・本講習会は今後の各現地における継続的な活動としてドッチビーが根付くことを願い、DBJAが独自におこなった事業で事前に現地要望や事情確認の上、希望が有る場合おこなうものとなりました関係から、実施は福島／岩手の2か所となりました。
- ・講習内容は約3時間の中で基礎のスロー&キャッチから公認3種目をすべて体験し、ディスクドッチの審判、ドッチディスタンスの計測など基礎全般となります。

● 福島講習会 8月2日（木曜日）合計24名

会津大学	8名
会津若松市スポーツ推進員	10名
大熊町小学校教員	1名
その他 地域団体関係者	5名



● 岩手講習会 8月6日（月曜日）合計21名

岩手大学	7名
北上市スポーツ推進委員	6名
岩手県フライングディスク協会	5名
岩手県レクリエーション協会	3名



- ・当講習会は指導・審判講習でありDBJA公認キッズリーダー資格の付与対象となり、資格証が発行されました。

【8月3日 福島大会 講評】

快晴の中、広大な会津総合運動公園内にそびえ建つ、あいづ総合体育館のメインアリーナに集合時間である12:00に続々と大会参加者が集合。



本大会は、おとなと子どもが混ざってチームを構成するミックス形式で全試合をおこないました。この形式はドッジビーの最も特長的な部分が明確に出ること、および大会企画のタイトルにもあるファミリー交流に最もふさわしいことから採用しました。



今日のメインゲストは原発の影響で会津若松市に避難している双葉郡大熊町立の2小学校の生徒たち。現地では事前に福島県協会による数回のドッジビー講習がおこなわれており、既に基本的なことは判っている様子で、すぐに独自練習を開始していました。それに負けてなるものかと大人たちも練習に励む姿はおもしろい光景でした。

おとなメンバーには、会津大学の学生や地域の皆さん、さらにニューウエイズ基金のメンバーの方々をお願いして、子どもたちとの交流を図っていただきました。

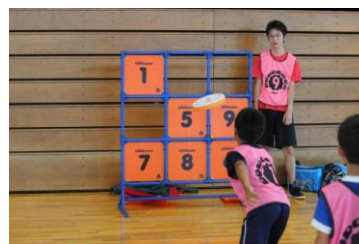
12:30からの開会式では、地元での準備を担った福島県フライングディスク協会会長の渡部貴人氏より冒頭の挨拶の後、大会特別協賛のニューウエイズ基金代表理事のテリーホワイト氏による流暢な日本語の挨拶に子どもたちはびっくりしていました。



対戦形式は4チームによる総当たり予選リーグ戦をおこない、その後、順位決定トーナメント戦をおこなうというもの。

対戦のないチーム向けに、試合コートの横にディスクゲッターでBINGOを狙うゲームコーナーを設置。

抜けたパネルの枚数分、お菓子がもらえるお楽しみ企画を実施しました。



また、予選リーグ戦終了後の 14 : 30 から休憩時間を設け、DBJAスタッフおよび選手でもある会津大学の学生スタッフによるゴールドタッチの実戦デモンストレーションゲームをおこない



ルール説明を交えながら、やりたがる有志の子どもにも参加してもらいました。



16 : 00 より表彰・閉会式を開始。試合の結果は

優勝 = すいっち女子チーム (上郷町)

準優勝 = すいっち男子チーム (上郷町)

3位 = 大野小学校チーム (大熊町)

4位 = 熊町小学校チーム (大熊町) となりました。

メインゲストの2チームは3 / 4位となりましたが大いにドッチビーを楽しんでいただけたものと思います。

入賞チームには副賞として、ニューウエイズ基金よりオリジナルデザインのドッチビーディスクが、また、全ての参加者に体にやさしい成分でつく



られたシャンプーやボディソープが参加賞として配布されました。



引き続き、閉会式をおこない、ニューウエイズ基金評議員の剛力英樹氏より大会の感想や御礼の挨拶をいただき、無事、大会は終了となりました。

全試合の審判は前日の講習会を受講していただいた方々がおこない、今後優良な審判として地元で活動していただけるものと感じられたことは大きな喜びでした。

参加した方より楽しかった！！ありがとう！と声をかけられたことは何よりのご褒美です。

【8月7日 岩手大会 講評】

第1回福島大会の会場にまったく劣ることのない広大かつ立派な北上総合運動公園内にある北上総合体育館 大アリーナが本シリーズ第2回大会となる岩手大会の会場です。天候も福島に負けず劣らずの快晴の中、おこなわれました。



普段、違うスポーツをおこなう子どもたちが一緒に、すぐに共通でおこなえるというのもドッチビーの大きな特長となっています。

そこで、今回のメインテーマは交流に重点を置き、地元の小学校に通うバスケットチームとサッカーチームに所属する子どもたちを中心としたチームが集い、地域においてドッチビーが根付くことで和が広がることを狙った大会としましたので、あらかじめ地域の

行政および行政に近い方々やフライングディスク関連団体への協力要請を特に強めました。



12:30 よりおこなわれた開会式では大会主管である岩手県フライングディスク協会を代表して協会名誉会長および県会議員の高橋孝眞氏より大会の趣旨、次に特別協賛 ニューウエイズ基金代表理事のテリーホワイト氏より協力する思い、また地元、北上市教育委員会教育長の小原善則氏より、ドッチビーの良さなどを交えたご挨拶を頂戴しました。

その後、子ども代表として南小学校6年生の井上 陸君、おとな代表としてニューウエイズジャパンの米倉 博さんの2名が声を揃えての選手宣誓をおこないました。

本大会の参加チームは地元の小学生チーム5チームとおとなだけのニューウエイズチームの計6チーム。おとなチームは10名。

子どもチームは13名の人数ハンディ制を採用。

対戦形式は3チームの2リーグによる予選と各リーグの同順位チームが最終順位決定戦をおこなう形式としました。





対戦のないチーム向けには福島大会同様、試合コート横にディスクゲッターでBINGOを
狙うゲームコーナーを設置してお楽しみ企画を実施しました。

予選リーグ戦終了後の14:30からドッジディスタンスの
公式記録会をおこないました。参加選手の子どもたち全
員とスタッフも含めたおとなも挑戦しましたが、残念な
がら本記録会での日本記録更新はありませんでした。し
かし、記録会終了後も独自練習する子どもたちが多数お
り、ディスタンスという競技が単純だが興味対象として
魅力があることを再確認しました。



さらに審判についても福島大会同様ほぼ地元の方々によるジャ
ッジメント体制で終始運営ができたことは、事前講習会の効果
を感じることができ嬉しく感じました。



試合結果は優勝 = ドッジ南小チーム (南小学校)
準優勝 = 相去スパークチーム (南/照岡小学校サッカー)
3位 = 相去ボンバーチーム (南/照岡小学校サッカー)
4位 = ニューウエイズチーム (おとな)
5位 = 黒東ボーイズ (黒沢尻東小バスケット)
6位 = 黒東ガールズ (黒沢尻東小バスケット) となりました。

表彰式では入賞チームに副賞としてニュー
ウエイズ基金オリジナルデザインのドッジ
ビーを、また体にやさしい成分でつくられた
シャンプーやボディソープが参加賞として
配布されました。引き続き、閉会式をおこな
い、前回福島大会では多忙にて先に帰京なさ
ったニューウエイズ基金代表理事のテリー
ホワイト氏より、今回最後まで観戦した大会



の感想をいただき、その中で今後もドッジビーを応援する旨、お話をいただいたこと、
また大会終了後に耳にした引率の保護者の方がおっしゃっていた「こんなにおもしろいん
なら、早く告知すればもっと多く参加者が集まるよ！」との嬉しくも猛反省すべき意見
を聞いたことが非常に印象に残った大会でした。

【 8 月 2 1 日 宮城大会 講評】

本シリーズ最後を飾る第3回宮城大会は仙台から車で約1時間の海に面した町、震災関連の報道で何度も耳にしたことがある亶理町。

亶理町は震災以前よりドッチビー大会がおこなわれており、協会認定大会の申請も受けた実績があることから、この地に足を踏み入れることについて、うまく表現できないのですが感じる場所がある町でした。

会場は佐藤記念体育館という築年数は経っているものの、となりに別棟の武道場があり、歴史と伝統を感じさせるような風格をもった体育館を使用させていただきました。



本大会はシリーズ中、あらゆる意味で異なる点があり、

- ・最大人数となる7チーム150名超の子どもたちの参加、
- ・町内の各児童館を町所有のバスで巡回送迎をおこなう、
- ・唯一、昼を挟んでの午前午後を通した大会スケジュール、
- ・児童館に保護者がお迎えに訪れる時間の事情で終了時間厳守、などなど、

高いハードルに思いましたが本大会の現地コーディネートを担っていただいた亶理町児童館／児童センターの職員さんたちが過去にもドッチビー大会開催の経験があり、これらの課題をことごとく、クリアしていただくなど事前準備および企画段階から大変お世話になりましたことを冒頭に御礼申し上げます。ありがとうございました。



9:30 バスが到着次第、早々に開会式を開始。

会場は決して狭くはないのだが、試合コート2面を確保すると練習スペースもほぼなくチームごとに練習時間を設定するなどの配慮が必要となり、セレモニー部分での簡略化をお願いして特別協賛のニューウエイズ基金理事の後藤宇紀子氏ご挨拶のみとさせていただき、対戦抽選、準備体操、練習時間と少々慌ただしいスタートとなりました。



試合開始は10:30となり、予定時間10分押してのスタートとなりましたがリカバリー可能な範囲でまずはひと安心。

本大会の参加チームは児童館ごとに7チームとおとなだけのニューウエイズチームの計8チーム。おとなチームは10名。子どもチームは13名の人数ハンディ制を採用。対戦形式は



4チーム

の2リーグの予選と各リーグ1-2位チームが決勝トーナメントを、3-4位チームが順位決定リーグ戦をおこなう形式。



12:30より全体昼食休憩のあと、ディスゲッターを使用したBINGOを狙うゲーム時間を設定し、すべての子どもたちおよび児童館職員が参加。過去大会を踏襲した抜けたパネルの枚数分、お菓子がもらえるお楽しみ企画はここでも実施。



午後からのタイムスケジュールは正常化、と言うよりも早め進行で順調にと思いきや!

決勝トーナメント1回戦と3位決定戦が同点となりPT (Penalty Throw) 戦による決着となりました。さすがに、過去、大会経験があるだけにレベ



ルも高く見ごたえ充分。

PT戦は周りの盛り上がりも異様なほどで、これは結構良いと! 自画自賛ではありますが、PT戦の決着はおもしろい!

試合結果は	優勝 = おおくまジュニアチーム	(逢隈児童館)
	準優勝 = わたりフェニックスチーム	(亶理児童クラブ)
	3位 = バルセロナ竜王チーム	(荒浜/高屋児童クラブ)
	4位 = わたりエンターズチーム	(亶理児童クラブ)
	5位 = おおくま1-2年チーム	(逢隈児童館)
	6位 = 吉田アルティメットチーム	(吉田児童クラブ)
	7位 = 西吉田アップルズ	(吉田西児童館) となりました。



表彰・閉会式も過去大会同様に副賞/参加賞が贈呈され、滞りなく当初の予定時間通りに終了することができました。



本シリーズ中、日程的な事情で事前の講習会が実現できなかったことを残念に思うとともに大きな反省点として、肝に銘じる所存です。

【クリップ】

●福島県双葉郡大熊町立熊町小学校 ブログ 8月4日



●岩手日日新聞社 ホームページ 8月8日

